

平成 21 年 5 月 18 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2005 年度～2008 年度

課題番号：17401005

研究課題名（和文）

スーダンにおける戦後復興と平和構築の研究

研究課題名（英文）

A Study on the Reconstruction and Peace-Building in the Post-War Sudan

研究代表者

栗本 英世 (KURIMOTO EISEI)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：10192569

研究成果の概要：

2005 年包括的平和協定が締結され、内戦から平和へというおおきな転換期にあるスーダン共和国において、①戦争から平和へという歴史的転換が、スーダンの国家と社会に現在進行形で与えるインパクト、および②持続的平和を実現するため実行・計画されている平和構築プログラムの実態と評価の 2 点を主要な課題として、文献研究と現地調査を実施し、綿密かつ動的な記述と分析をおこなった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	3,800,000	0	3,800,000
2006 年度	4,300,000	0	4,300,000
2007 年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2008 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
年度			
総計	12,900,000	1,440,000	14,340,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：内戦、スーダン、開発援助、平和構築、戦後復興

## 1. 研究開始当初の背景

計画調書作成時は、まさにスーダン政府と反政府組織スーダン人民解放運動／スーダン人民解放軍 (SPLM/SPLA) との平和交渉が大詰めを迎えていた時期であった。本研究プロジェクトは、22 年間にわたった長期の内戦が、社会に与えたインパクトと戦後復興のあり方を地域研究の視点——人類学、歴史学、政治学——から考察することを目的として構想された。

## 2. 研究の目的

①戦争から平和へという歴史的転換が、スーダンの国家と社会に現在進行形で与えるインパクト、および②持続的平和を実現するため実行・計画されている平和構築プログラムの実態と評価という 2 点を主要な研究課題にすえ、人類学と地域

研究の視点から、戦後社会の現状と動態を明らかにし、国際社会による介入のあり方を批判的に検討するとともに、スーダンにおける国家と社会の今後を展望することを目的とする。

さらに本研究は、スーダンにおける復興と平和構築を担う主体はだれか／なにかという、スーダン人自身にとって、また社会科学的にもきわめて重要な問題を考察することも目的としていた。

### 3. 研究の方法

研究プロジェクトのメンバーは、内戦勃発以前の時期から、長年スーダンおよび周辺諸国で調査研究を実施してきた4名から構成される。スーダンの北部と南部、および巨大なスーダン難民キャンプが存在したケニア北西部で、参与観察とインタビューを手法とするフィールドワークを実施するとともに、現地では入手できない文献資料、他の一般的文献資料、およびインターネット上の情報やニュースに関する調査をおこない、研究のための基礎資料とした。

研究代表者の栗本英世は、主として南部スーダンの首都ジュバ、東エクアトリア州各地レイクス州、ジョングレイ州、上ナイル州、および首都のハルツームで調査を実施した。研究分担者の栗田禎子は、首都ハルツームと、エジプトで調査に従事した。研究分担者の岡崎彰は、首都ハルツームと北部の青ナイル州、南部スーダンのジュバ、およびチャドで調査を行った。研究分担者の太田至は、ケニアのカクマ難民キャンプと南部スーダンの東エクアトリア州で調査に従事した。

フィールドワークに際しては、ナショナル、サブ・ナショナル（北部と南部）、リージョナル（北部と南部それぞれの地方行政上の単位である州）、そしてローカルという、三つのレベルの違いに留意しつつ、レベル間の相互作用に注目した。

また、具体的な調査研究のテーマとしては、以下の五つの諸課題に焦点をあてた。①ローカルなレベルで存在する民族集団間の敵対・緊張関係と、和解と平和構築の試み、②帰還民（元難民・国内避難民）・元兵士の再統合、③地方政府のガバナンスと新旧エリート層の動態、④ナショナルなレベルでの権力分有、権力闘争の動態、⑤復興・人道的援助の経済学と政治学。

### 4. 研究成果

本研究プロジェクトの結果、多様なアクターのからまりあいと、地域的な相違を背景として、戦後スーダンにおける社会の動態的な記述と分析が達成された。

スーダンの戦後復興と平和構築という現在進行中の大規模な国家的・国際的プロジェクトの全容を把握し、地域研究の視点から分析を試みた結果、明らかになったのは、上は国連や国際 NGO から、中間には南部スーダン政府と SPLA、下はローカルな村の住民や元兵士に至る、多様なアクターのあいだに、期待と利害関心の大きなギャップが存在することであった。このギャップは、スーダン全体の持続的な平和と安定の構築にとって障害であると考えられる。本研究プロジェクトは、4年間の調査研究の成果を踏まえ、こうしたギャップを正面から取り扱うことの重要性を指摘した。さらに、国際的な援助の経済学と政治学、ナショナルなレベルでの権力分有・闘争という文脈を押さえつつ、ローカルな人びとの主体性に注目し、「下からの平和」の意義を強調した。

以上の成果は、紛争後の国家と社会の再構築という、国際社会が世界のさまざまな国や地域で直面している課題と取り組むうえでも、有効であると考えられる。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計14件）

- ① 栗田禎子、「「移行期」のスーダン政治—南北和平・民主化・ダルフル危機」、『地域研究』、9、2009年、68-89頁、査読無し
- ② 栗本英世、「学者が斬る 360—南部スーダンの復興に学ぶ」、『週刊エコノミスト』2008年5月13日号、2008年、48-51頁、査読無し
- ③ 栗田禎子、「スーダン情勢の構造と自衛隊派遣問題」、『世界』、2008年、29-32頁、査読無し
- ④ 栗本英世、「政治化される宗教—スーダンにおけるイスラームとキリスト教」、『JANES ニュースレター』、16、2007年、15-23頁、査読無し

- ⑤ Ohta, I., "Marriage and Bridewealth negotiations among the Turkana in northwestern Kenya," *African Study Monographs, Supplementary Issue*, No. 37, pp.3-26, 2007、査読有り
- ⑥ Ohta, I., "English-Turkana Texts of a Case of Bridewealth Negotiations in Northwestern Kenya," *African Study Monographs Supplementary Issue*, No. 37, pp.29-152, 2007、査読有り
- ⑦ Ohta, I., "Bridewealth Negotiations among the Turkana in Northwestern Kenya," (DVD documentary work) *African Study Monographs, Supplementary Issue*, No. 37, DVD Attachment, 2007、審査有り
- ⑧ 栗本英世、「戦後スーダンの政治的動態—包括的平和協定の調停から1年3ヵ月を経て」、『海外事情』、54巻4号、2006年、77-92頁、査読無し
- ⑨ 栗田禎子、「『包括和平協定』成立後のスーダン—現状と展望」、『アフリカレポート』アジア経済研究所、2006年、40-45頁、査読有り
- ⑩ 栗本英世、「スーダン内戦の終結と戦後復興」、『海外事情』、53巻4号、2005年、2-21頁、査読無し
- ⑪ 岡崎彰、「援助・誘惑・悪夢—日本とアフリカの悩ましい関係」、『神奈川大学特論』、51巻、2005年、142-146頁、査読有り
- ⑫ 栗田禎子、「スーダン—南北「和平協定」と今後の課題」、『海外事情』、53巻6号、2005年、62-73頁、査読無し
- ⑬ 栗田禎子、「ダルフル危機」、『史資料ハブ—地域文化研究』、東京外国語大学大学院地域文化研究科、6号、2005年、47-54頁、査読有り
- ⑭ Ohta, I., Coexisting with Cultural 'Others': Social Relationships between the Turkana and Refugees at Kakuma, Northwest Kenya, *Pastoralists and Their Neighbors in Asia and Africa (Senri Ethnological Studies, No.69)*, In K. Ikeya and E. Fratkin (eds), Osaka, National Museum of Ethnology, pp.227-239, 2005、査読有り

[学会発表] 計 (10) 件

- ① 岡崎彰、「アフリカ・スーダンにおける『和解』」、「シンポジウム『和解について—暴力、恐怖、対話のはてに』」、2009年1月16日、一橋大学
- ② 栗田禎子、「スーダン国内の「周縁化された諸地域」に対する弾圧の歴史とその克

服の展望」、日本国際政治学会 2008 年度研究大会(「人権侵害と国家責任の比較研究」部会)、2008年10月26日、つくば国際会議場

- ③ 栗本英世、「南部スーダンの事例から」(公開講演「紛争、人類学、食糧の安全保障」)人間の安全保障教育研究コンソーシアム第2回研究大会、大阪大学、2008年9月20日
- ④ 岡崎彰、「『New Sudan』と『自己決定』—南北スーダン境界地帯における人種・文化言説と内なる戦い」、国立民族学博物館共同研究『『政治的アイデンティティ』とは何か?—解放運動としての先住民運動』、2008年6月28日、国立民族学博物館
- ⑤ 栗田禎子、「スーダンというトポス: 植民地支配・周縁化・革命」、千葉県高等学校教育研究会 歴史部会研究大会記念講演、2008年6月27日、千葉県立中央博物館
- ⑥ 岡崎彰、「ネオリベラリズムの『合理性』の『魔術』—人類学の反時代性に関する一考察」、日本文化人類学会第42回研究大会分科会「ネオリベラリズム時代における人類学の可能性」、2008年6月1日、京都大学
- ⑦ 岡崎彰、「ポスト・ワールド・ミュージック時代のアフリカのポップミュージックとその受容・変容・借用・流通(含スーダン)」、アフリカセミナー、2007年12月8日、一橋大学
- ⑧ 岡崎彰、「スーダン・ガムク社会の夢を語ることば」、ことば村セミナー、2007年5月19日、慶応大学
- ⑨ 栗本英世、「政治化される宗教—スーダンにおけるイスラームとキリスト教」(招待講演)、日本ナイル・エチオピア学会第15回学術大会、南山大学、2006年4月15日
- ⑩ Eisei Kurimoto, "Human (In)security under War Situation: The Case of Southern Sudan," International Conference, "Globalization, Difference, and Human Security," Osaka University, 14 March 2008.

[図書] 計 (17) 件

- ① 栗本英世、「先住性が政治化されるとき—エチオピア西部ガンベラ地方におけるエスニックな紛争」、『先住民とはだれか』(窪田幸子、野林厚志編)、世界思想社、印刷中
- ② 栗本英世、「紛争後の国と社会における

- 人間の安全保障』(栗本英世編著・GLOCOLブックレット 01)、大阪大学グローバルコラボレーションセンター、2009年、79頁
- ③ 栗本英世、「難民という生き方」「民族紛争」日本文化人類学会編『文化人類学事典』東京：丸善株式会社、2009年、208-281、578-579頁。
- ④ 岡崎彰、「影の戦争」、『文化人類学事典』(日本文化人類学会編)、東京：丸善株式会社、2009年、582-583頁
- ⑤ 太田至、「家畜が伝えること」、『文化人類学事典』(日本文化人類学会編)、東京：丸善株式会社、2009年、290-291頁
- ⑥ 栗本英世、「戦争」「開発」「難民」「エスティシティと民族問題」等10項目執筆、山下晋司、船曳健夫編『文化人類学キーワード(改訂版)』、有斐閣、2008年。
- ⑦ 栗本英世、「ジョン・ガランにおける『個人支配』の研究」、『統治者と国家—アフリカの個人支配再考』(佐藤章編)、アジア経済研究所、2007年、165-222頁
- ⑧ 栗本英世、「教育に託した開発・発展への夢—内戦、離散とスーダンのパリ人」、『ポスト・ユートピアの人類学』(石塚道子、田沼幸子、富山一郎編)人文書院、2008年、45-69頁
- ⑨ 栗本英世、「教育に託した開発／発展への夢—内戦、離散とパリ人」、『ポスト・ユートピアの民族誌』田沼幸子(編)、大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」、2006年、223-241頁
- ⑩ 栗本英世、「グローバル化、ディアスポラ、エスニック・マイノリティーエチオピア・ガンベラ地方におけるアニュー人の虐殺をめぐる」、『グローバル化と社会的「弱者」』(『平和研究』)日本平和学会編、早稲田大学出版部、31号、2006年、3-21頁
- ⑪ 栗本英世、「「あなたのクラン名はなんですか？」—変容するアニュー社会における出自集団」、『マイクロ人類学の実践—エンジェンシー/ネットワーク/身体』(田中雅一・松田素二編)、世界思想社、2006年、406-423頁
- ⑫ 栗田禎子、「植民地都市ハルトゥームと近代スーダンの知識人たち」、『アジア遊学』(特集「アラブの都市と知識人」)、86号、2006年、104-114頁
- ⑬ 栗田禎子、「オムドゥルマーンの娘たち—19世紀スーダンのマフディー運動と女性」、『新しいアフリカ史像を求めて—女性・ジェンダー・フェミニズム』(富永智津子・永原陽子編)、御茶ノ水書房、2006年、255-278頁
- ⑭ Kurimoto, Eisei, Multidimensional Impact of Refugees and Settlers in the

- Gambela Region, Western Ethiopia, Displacement Risks in Africa: Refugees, Resettles and Their Host Population, In Ohta, I. and Yntiso D. Gebre (eds), Kyoto: Kyoto University Press, pp.338-358, 2005
- ⑮ Ohta, I. and Yntiso D. Gebre (eds), *Displacement Risks in Africa: Refugees, Resettles and Their Host Population*, Kyoto: Kyoto University Press, 2005, p.394
- ⑯ Gebre, Y. D., and I. Ohta, Introduction: displacement in Africa: Conceptual and Practical Concerns, *Displacement Risks in Africa*, In Ohta, I. and Yntiso D. Gebre (eds), Kyoto: Kyoto University Press, pp.1-14, 2005
- ⑰ Ohta, I., Multiple Socio-Economic Relationships Improvised between the Turkana and Refugees in Kakuma Area, Northwestern Kenya, *Displacement Risks in Africa*, In Ohta, I. and Yntiso D. Gebre (eds), Kyoto: Kyoto University Press, pp.315-337, 2005

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

栗本 英世 (KURIMOTO EISEI)  
大阪大学・人間科学研究科・教授  
研究者番号：10192569

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者

岡崎 彰 (OKAZAKI AKIRA)  
一橋大学・大学院社会科学研究所・教授  
研究者番号：00409971  
栗田 禎子 (KURITA YOSHIKO)  
千葉大学・文学部・教授  
研究者番号：10225261  
太田 至 (OHTA ITARU)  
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授  
研究者番号：60191938